新潟市観光・文化検定

子ども用テキストブック

知ればもっと
新潟が好きになる！

この本を使って
ニイガタ検定にチャレンジ★

新潟市観光・文化検定実行委員会編集
（2014.9 改定）

もくじ

１．新潟市の概要

〇市の木・市の花　〇平成の大合併　〇政令指定都市　〇市の人口・面積　〇緯度　●４
〇市章　〇姉妹都市　〇交通の拠点

２．新潟市の歴史

〇渟足柵　〇三ヶ津　〇西回り航路と新潟湊　〇明暦の町建て　〇新潟上知　●６
〇新潟明和事件　〇戊辰戦争

３．近代の新潟

１）港

〇新潟開港　〇港の近代化　〇新潟東港の開港　●８

２）交通網の発達

〇川蒸気船の就航　〇鉄道開設　〇上越線開通　〇新潟駅の移り変わり　●９
〇新潟空港

３）水とのたたかい

〇横田切れ・木津切れ　〇曽川切れ　〇大河津分水　〇関屋分水路　●11
〇栗ノ木排水機場　〇湿田の乾田化

４）明治～昭和の出来事

〇新聞の始まり　〇新潟市制施行　〇ラジオ放送開始　〇新潟大火　〇新潟地震　●13

４．史跡・文化財・寺社

１）国指定の史跡

〇菖蒲塚古墳　〇古津八幡山遺跡　●14

２）重要文化財

〇萬代橋　〇旧新潟税関　〇新潟県政記念館　〇旧笹川家住宅　●15

３）寺社

〇白山神社　〇湊稲荷神社　〇日和山住吉神社　〇種月寺　〇佛興寺　●16

４）石碑

〇「砂山」歌碑　〇「花嫁人形」の歌碑　〇良寛句碑　●17

５．生活と文化

１）市場

〇本町市場　〇白山市場　〇松浜市場　〇葛塚市　〇白根定期市場　〇三・九の市　●18

２）まつり

〇新潟まつり　〇亀田祭り　〇にいつ夏まつり　●20

３）芸能
〇新潟甚句　〇新潟万代太鼓　〇角兵衛獅子　〇にいがた総おどりまつり　●20
〇白根大凧合戦
４）伝統工芸
〇新潟漆器　〇新潟・白根仏壇　〇漫画文化　〇お笑い集団ＮＡＭＡＲＡ　●22
〇新潟古町芸妓　〇アルビレックス新潟

６．農・水・農産物

１）花
〇チューリップ　〇アザレア　〇サツキ　〇ボケ　〇ホワイト阿賀　●24
２）食
〇コシヒカリ　〇くろさき茶豆　〇かきのもと　〇女池菜　〇十全なす　●25
〇藤五郎梅　〇ル レクチエ　〇越後姫　〇南蛮えび　〇のどぐろ
〇のっぺ　〇地酒　〇笹団子　〇ぽっぽ焼き　〇イタリアン　〇タレかつ丼

＊＊新潟市食と花の銘産品一覧＊＊　●28

７．自然と観光施設

１）自然景観
〇信濃川　〇阿賀野川　〇鳥屋野潟　〇佐潟　〇福島潟　〇角田山　〇多宝山　●29

２）観光施設
〇みなとぴあ　〇白山公園　〇北方文化博物館　〇新潟市観光循環バス　●31
〇ＳＬばんえつ物語号

８．新潟市ゆかりの人々

１）学者・芸術家
〇中田瑞穂　〇澤田敬義　〇荻野久作　〇平澤興　〇巻菱湖　〇吉田千秋　●32
〇前川國男
２）文芸・マンガ
〇坂口安吾　〇會津八一　〇新井満　〇火坂雅志　〇水島新司　〇赤塚不二夫　●34
〇高橋瑠美子
３）芸能・スポーツ
〇小林幸子　〇市山七十世　〇川田芳子　〇小唄勝太郎　〇羽黒山政司　●36
〇加藤澤男　〇ヒルクライム　〇ねぎっこ
４）外国人
〇ピエトロ･ミリオーレ　〇イザベラ･バード　〇デューク･エリントン　●38

腕試し問題（第５回ニイガタ検定問題より）　●40

１．新潟市の概要

○市の木・市の花（しのき・しのはな）

新潟市は政令指定都市移行を記念して 2007（平成19）年、市の緑化のシンボルとなる市の木と市の花を制定しました。制定にあたり公募し、市の木には「ヤナギ」、市の花には「チューリップ」が選ばれました。

○平成の大合併（へいせいのだいがっぺい）

新潟市は 2005（平成17）年の平成の大合併で、新津市、白根市、豊栄市、小須戸町、横越町、亀田町、岩室村、西川町、味方村、潟東村、月潟村、中之口村、巻町の近隣13市町村と合併して現在の新潟市の姿になりました。

○政令指定都市　（せいれいしていとし）

2007（平成19）年 4 月、新潟市は本州の日本海側で初の政令指定都市となりました。政令指定都市は現在全国で 20 市あります。新潟市も政令指定都市になり、独自の街づくりや住民サービスができるようになりました。

政令都市移行にともない、北区、東区、中央区、江南区、秋葉区、南区、西区、西蒲区の8つの行政区ができ、区役所が設けられました。区の中で、人口が最も多いのが中央区、最も少ないのが南区、面積は最も広いのは西蒲区、最も狭いのは中央区です。新潟市の農業産出額は2006（平成18）年で、市町村別では全国３位、米の産出額は全国1位と、緑豊かな田園型政令市となりました。

○市の人口・面積（しのじんこう・めんせき）

新潟市の人口は2014（平成26）年8月末現在で、約80万4000人です。新潟県の人口のおよそ3分の1を占めます。世帯数は約32万7100世帯です。市の面積は約726平方キロメートルで、県内の市町村では8番目の広さです。

○緯度（いど）

新潟市の最も北の緯度は、北緯38度01分12秒で、同じ緯度にはアメリカ・サンフランシスコ、中国・天津、ポルトガル・リスボンなどの都市があります。

○市章（ししょう）

<新潟市章>

新潟市の市章は港と雪をイメージしています。港のしるしである錨と、中央の五をもって江戸時代の開港5港を意味し、雪の輪を意味する雪環を頂かせて、5港の1つ、新潟を表しています。1908（明治41）年に制定されました。

○姉妹都市（しまいとし）

新潟市は1965（昭和40）年、国際交流を進めるため、アメリカのガルベストン市との間で姉妹都市提携をしたのをはじめ、現在ロシアのハバロフスク、ウラジオス

トク、ビロビジャン、近年では2009（平成21）年にフランスのナント市と姉妹都市提携を結んでいます。

○交通の拠点（こうつうのきょてん）

新潟市には、新潟空港という国際空港があります。1973（昭和48）年、ハバロフスク線が開設されてからは北東アジアを中心に国際線が増え、現在ハバロフスク、ウラジオストク、ハルビン、ソウル、上海、グアムの海外6都市や国内各地と結ばれています。

新潟と東京を結んでいる上越新幹線は1982（昭和57）年に開業、高速道路も1997（平成9）年までに関越、北陸、磐越自動車道が全線開通しています。新潟港も整備され、外国とのコンテナ航路や北海道航路など海上交通も発達しています。

２．新潟市の歴史（にいがたしのれきし）

○渟足柵（ぬたりのさく＝ぬたりのき）

新潟市付近は「日本書紀」（奈良時代に成立した現存最古の日本正史で720（養老4）年完成）に、「647（大化3）年、渟足柵を造り」と出てくるのが最初です。奈良地方にあった大和朝廷による北方支配の拠点としてつくられた城柵とみられます。

「ぬたりのき」との読み方もあります。柵があった場所ははっきりわかっていません。

○三ヶ津（さんかづ）

旧新潟市地域の港は今から400年以上前、信濃川と阿賀野川の下流に、蒲原津・沼垂湊・新潟津（＝新潟湊）と三港があり、三ヶ津とよばれ栄えました。蒲原津は927（延長5）年に完成した延喜式（平安時代に編集された法令）に出ており、

古くは中心的な港だったとされています。

○西回り航路と新潟湊（にしまわりこうろとにいがたみなと）

17世紀後半には、日本海側（松前・秋田・酒田・新潟など）から関門海峡（本州と九州のあいだ）を通り、瀬戸内海から大阪、さらに江戸までいく海上輸送ルートの西回り航路が開拓されました。新潟湊からは米の積み出しなどが行われ、西国からは塩、木綿、藍などが、北からはニシン・昆布・ベニバナなどが運ばれ、貿易の拠点としてにぎわいました。1697（元禄10）年には40もの地方から3500隻が新潟湊へ寄港しました。

○明暦の大移転（めいれきのだいいてん）

新潟町の町並みの基礎を築いたのは長岡藩主の堀直寄と次の藩主、初代牧野忠成です。1617（元和3）年から1655（明暦元）年にかけて、堀のある町づくりが行われ、今の町並みの元となりました。「明暦の町建て」「明暦の町割り」ともいいます。

○新潟上知（にいがたじょうち）

＜川村修就像＞

江戸時代後期、新潟湊で抜け荷（密貿易）事件が相次ぎ、新潟町は1843（天保14）年長岡藩領から幕府領（天領）になりました。これを新潟上知といいます。抜け荷を取り締まること、外国船の防衛拠点を新潟に築くことが目的でした。初代の奉行（武家時代の職名のひとつ）は川村修就です。

○新潟明和事件（にいがためいわじけん）

1768（明和5）年、不景気や凶作で米の値上がりも重なり、新潟町民は苦しい日々

を送っていましたが、長岡藩はさらに御用金を要求しました。涌井藤四郎は長岡藩に延納をお願いしようとしましたが、逆に悪いことを企てているとして捕まって牢屋に入れられてしまいました。

新潟町民は涌井を助けようとして町役人の家や米問屋を打ち壊しました。ようやく釈放されて、涌井を新潟町総代として約2ヶ月間自分たちで政治を行いました。その後、長岡藩の取り調べが始まり、関係者が処罰され涌井は打ち首になりました。これが新潟明和事件と呼ばれるものです。町民は涌井らを供養し事件を語り伝えました。涌井藤四郎や当時の町民は、後に「明和義人」と呼ばれます。

○戊辰戦争（ぼしんせんそう）

薩摩、長州、土佐などを中心とした新政府軍と、旧江戸幕府および奥羽越列藩同盟などが戦った戦争です。1868（慶応4=明治元）年、鳥羽伏見の戦いが始まり、新政府軍は米沢、会津などの各藩の共同管理下におかれた新潟町へも進軍、制圧し、長岡城も落ちました。翌年、新政府軍の勝利で終わりました。戦いに敗れた長岡藩へ支藩の三根山藩が送った百俵の米を、すぐに食べようとせず、人材育成のため学校を建てる資金とした、長岡藩大参事・小林虎三郎の話を山本有三が戯曲に仕立てたのが有名な「米百俵」です。

３．近代の新潟（きんだいのにいがた）

１）港（みなと）

○新潟開港（にいがたかいこう）

江戸時代の長い鎖国から1854（嘉永７）年、日本は開国に踏み切り、下田と函館を開港しました。1858（安政5）年には、アメリカやオランダなど5カ国と

修好通商条約を結びました。この中で新潟は、横浜、函館、長崎、神戸などとともに開港5港に指定されました。日本海側最大の港町であること、幕府領であることが選ばれた理由です。1869（明治元）年に新潟港は開港しました。

○港の近代化（みなとのきんだいか）

明治期から大型船が入れるような大きな港 をつくろうと運動がおこり、1926（大正15）年に県営の埠頭が完成しました。民間会社による港造りも進められ、全国的にも珍しい私有港湾（臨港埠頭）として、現在も使われています。このように新潟港は大正から昭和にかけて近代港湾としての基盤が整いました。

○新潟東港の開港（にいがたひがしこうのかいこう）

＜新潟東港＞

1960（昭和35）年に「国民所得倍増計画」が発表されました。それに伴い新潟でも社会資本整備が必要となり、新しい工業地帯や産業港湾造りが計画されました。　新港の建設は新潟市と聖籠村（現町）にまたがる海岸線で着工され、陸地を掘り込んで工事が進められました。1969（昭和44）年に中央水路や埠頭１つが完成しました。現在の新潟東港です。その後10万トン級の船に対応するため港の充実やＬＮＧ（液化天然ガス）基地も造られ工業港として発展しています。

２）交通網の発達（こうつうもうのはったつ）

○川蒸気船の就航（かわじょうきせんのしゅうこう）

1874（明治7）年、県令（今の県知事）楠本正隆の勧めで新潟町の回船問屋たちが会社をつくり、新潟最初の蒸気船として

横浜で造られた「魁丸」を信濃川の新潟―長岡間に運航させました。それまで上りに4～5日、下りに2日かかっていたのが、上り11時間、下り8時間で運航したため、運賃が高かったものの多くの人が利用し、「川蒸気」と呼んで親しまれました。しかし、明治30年代からは鉄道の発達でお客が減り、1938（昭和13）年になくなりました。

○鉄道開設（てつどうかいせつ）

新潟県で初めての鉄道開業は1886（明治19）年に開業した直江津（上越市）―関山（旧妙高村）間の信越線です。新潟市までは1897年（明治30）年に北越鉄道が開通し、沼垂駅などが開業しました。それまで川船で運ばれていた荷物も鉄道で運ばれるようになりました。

その後、今の磐越西線、羽越本線の開通で３つの路線が集まる新津駅は「鉄道のまち」として日本海側の鉄道の要となり発展しました。現在も新津車両製作所で新型客車を作り、東京の山手線でも使われています。

○上越線開通（じょうえつせんかいつう）

新潟―東京間の一番近い鉄道の上越線は群馬県との県境の清水トンネルが貫通したことで、1931（昭和6）年、長岡―高崎間が開通し、新潟―上野間の全線がつながりました。それまでの信越線経由より4時間、磐越線経由より2時間40分も早くなりました。

○新潟駅の移り変わり（にいがたえきのうつりかわり）

北越鉄道（現在の信越線の一部）が1897（明治30）年、沼垂―一ノ木戸（三条市）間で開通しましたが、新潟の駅をどこに置くかで新潟市と沼垂町で争いが起こりました。初めは沼垂駅が開業し、1904（明治37）年に現在の中央区の新潟東映ホテルあ

たりに新潟駅が開業しました。その後1958（昭和33）年には現在地の新・新潟駅が開業となりました。

○新潟空港（にいがたくうこう）

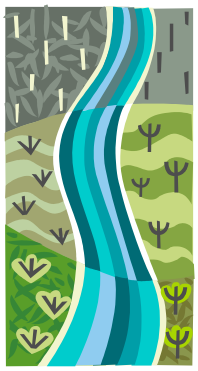
新潟空港は 1930（昭和5）年、新潟市営飛行場として始まりました。1972（昭和 47）年には 1900 メートルの滑走路が完成し、ジェット機が発着できるようになり新ターミナルも完成しました。1973（昭和 48）年に新潟―ハバロフスク（新潟と姉妹都市）間の定期航空路が開かれ、全国で 8番目の国際空港となりました。

３）水とのたたかい（みずとのたたかい）

新潟市は昔湿地が多く、鳥屋野潟周辺の亀田郷一帯は「芦沼」「地図にない湖」などと呼ばれ、稲刈りなど田仕事は腰まで水につかって行い、たびたび洪水にもおそわれて水との戦いを繰り返していました。現在は排水機場が整備され、見事な田園地帯になっています。

○横田切れ・木津切れ（よこたきれ・きつきれ）

1896(明治29)年 7 月に発生した大洪水は横田切れ、木津切れとよばれています。鳥屋野潟や栗ノ木川があふれ、さらに信濃川左岸の西蒲原郡横田村（旧分水町）、小阿賀野川右岸の中蒲原郡木津村（旧横越村）の堤防が決壊し大きな被害が出ました。この大洪水は死者31人、横田村の流失家屋2200戸、木津村の浸水家屋 1300 戸、半壊家屋200 戸が出るなど大災害となりました。



○曽川切れ（そがわきれ）

1917（大正6）年 9 月末の台風は、新潟港内の大型遠洋漁業船

7隻を沈没させるなど大きな被害をもたらしました。豪雨のため河川も氾濫、信濃川右岸の曽川でも補修工事中の堤防が広範囲に決壊し、大洪水に見舞われました。1922（大正 11）年に大河津分水が通水する前の最後の信濃川堤防決壊となった大洪水は、曽川切れとよばれました。

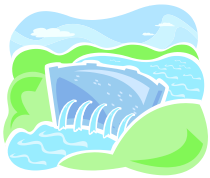
○大河津分水（おおこうづぶんすい）

横田切れ・木津切れ、曽川切れと大洪水に襲われ分水工事の必要性が高まりました。信濃川を三島郡大河津村（現長岡市寺 泊）から日本海へ分 流する約10 キロメートルの分水路を造ることになりました。1907（明治40）年から 1927（昭和2）年の間 に工事され、これにより分水から下流では大洪水はなくなりました。

○関屋分水路（せきやぶんすいろ）

西区平島から関屋浜海岸までの 1.8 キロメートルの分水路です。1968（昭和43）年から工事が 行 われ、1972 年（昭和 47）年に完成しました。これにより、信濃川の水量が安定し、新潟市中心部の水害の恐れも少なくなりました。

○栗ノ木排水機場（くりのきはいすいきじょう）



明治の中頃から旧豊栄市の新鼻新田や大月などでは全国に先駆けて動 力 排水が 行 われていましたが、1948（昭和23）年、東洋一の規模といわれた栗ノ木排水機場が完成し、阿賀野川、通船川、信濃川、小阿賀野川に囲まれ低くなっていた亀田郷地帯の排水機能が大きく 向 上 しました。

○湿田の乾田化（しつでんのかんでんか）

昭和の初めに大河津分水が通水した後、栗ノ木排水機場のように、

土地改良区や国営・県営の排水機場が次々に運転を始め、かつては胸まで水につかる湿田もみごとな乾田となり、越後平野の稲作は大きく発展しました。

４）明治～昭和の出来事（めいじ～しょうわのできごと）

○新聞の始まり（しんぶんのはじまり）

新潟県内で最初に発刊された新聞は 1872（明治5）年に刊行された「北湊新聞」ですが、毎日の発刊ではありませんでした。1877（明治 10）年に創刊された「新潟新聞」が本格的な日刊の新聞になります。新潟新聞は 1910(明治 43)年に創刊された「新潟毎日新聞」と 1941（昭和16）年に合併し、現在の新潟日報につながっています。

○新潟市制施行（にいがたしせいしこう）

市制、町村制が 1888（明治21）年に公布され、1889（明治 22）年、新潟市が生まれました。江戸時代から続く小さな村や町をまとめ、地方の自治体制を強くするためでした。新潟市の当時の人口は 4万3911 人、面積は 12平方キロメートル余り。初代の市長は大垣藩（現在の岐阜県大垣市）出身の小倉幸光でした。

○ラジオ放送開始（らじおほうそうかいし）

1931（昭和6）年に日本放送協会新潟支局（ＮＨＫ）が全国で 13番目にラジオ放送局を開局、旭町の高台に 55 メートルの鉄塔2基を建設し放送を始めました。新潟初の民間放送局はラジオ新潟（現ＢＳＮ）で 1952（昭和 27）年に当時の大和百貨店（2010（平成22）年撤退）をスタジオに放送を開始しました。

○新潟大火（にいがたたいか）

1955(昭和30)年10月1日未明、県庁第３分館(現新潟市役所)から漏電により出火、おりからの台風にあおられ猛火は東中通を越え、新潟日報社に飛び火しました。そして柾谷小路の小林百貨店（現三越）、新潟市役所（現ＮＥＸＴ２１）、大和百貨店に燃え移り、旧新潟市の中心部を一夜で焼き尽くしました。

焼失面積25万7400平方メートル、被災世帯数1193世帯、被災者5901人という大火災でした。

○新潟地震（にいがたじしん）

1964（昭和39）年6月16日午後1時過ぎ、粟島沖を震源とする震度5、マグニチュード7.5の大地震が発生しました。被害は新潟市が最も大きく、道路は割れ、陥没、隆起し、砂地では地層の流動化現象が起き、ビルや民家を傾け沈下させました。完成したばかりの昭和大橋の橋げたが落ち、昭和石油の石油タンクが爆発し火災が発生、鉄道もレールが曲がり列車は全線運休になりました。死者11人、負傷者125人、全壊全焼2338戸、半壊半焼7595戸という大災害となりました。

復興は全国からの支援のもと順調に進み、1967（昭和42）年には復興工事はほぼ完了しました。震災復興記念として、同年に新潟県民会館が完成しました。

４．史跡・文化財・寺社（しせき・ぶんかざい・じしゃ）

１）国指定の史跡（くにしていのしせき）

○菖蒲塚古墳（あやめづかこふん）

角田山のふもと、西蒲区竹野町（巻地区）にある古墳です。「前方後円墳」とよばれるお墓の種類で、上からみると丸と四角がつながったカギ穴のような形をしています。長さは約50メートル。遺体をうめた内部から青銅製の鏡が発見されました。

5世紀ころ（今から約1600年前）、西蒲原地方で力をもっていた豪族（有力者）が埋葬されたと考えられます。

○古津八幡山遺跡（ふるつはちまんやまいせき）

秋葉区古津の山頂で発見された弥生時代から古墳時代にかけての遺跡です。弥生時代の終わりころ（約1800年前）には「環濠」とよばれる大きな堀で囲まれてた村があり、竪穴住居や墓地がつくられました。村が高地にあって堀がめぐっているのは、敵の攻撃をふせぐためと考えられます。

２）重要文化財（じゅうようぶんかざい）

○萬代橋（ばんだいばし）

＜萬代橋＞

信濃川に架かる橋で、長年新潟市のシンボルとして市民に親しまれています。初代は木の橋で 1886（明治19）年に完成。長さ 782 メートルの日本一長い橋で、当初は「よろづよばし」とよばれました。現在の鉄筋コンクリート 6連アーチの萬代橋は 3代目となっています。2004（平成16）年に国の重要文化財に指定されました。

○旧新潟税関（きゅうにいがたぜいかん）

中央区の「みなとぴあ」にある、1869（明治2）年に建てられた建物です。1858（安政5）年に結ばれた修好通商条約による開港に際して、新潟港で輸出入される貨物の税金にかかわる仕事を行うために、新潟運上所として建てられました。後に税関と名を改めています。開港 5港の税関としての建物が残されているのは新潟だけです。西洋建築をまねて造り、擬洋風建築とよばれています。1969（昭和44）年に国の重要

文化財に指定されました。

○新潟県政記念館（にいがたけんせいきねんかん）

1883（明治16）年、白山公園の隣に「新潟県会議事堂」としてイギリスの国会議事堂をモデルに建てられました。木造2階建ての擬洋風建築の建物です。1969（昭和44）年に国の重要文化財に指定されました。

○旧笹川家住宅（きゅうささがわけじゅうたく）

南区味方にある旧笹川家住宅は、江戸時代より旧村上藩の大庄屋として味方組8ヵ村を支配してきた笹川氏の邸宅です。主屋は7年の歳月をかけ、1826（文政9）年に完成しました。周囲の堀を含めて敷地は20,000平方メートル、中央に約1,122平方メートルの住宅が建っています。1954(昭和29)年に国の重要文化財に指定されました。

３）寺社（じしゃ）

○白山神社（はくさんじんじゃ）

中央区一番掘通町にあります。新潟の町をまもる神として古くから親しまれ、多くの人たちがお参りに訪れています。建てられたのは、はっきりしませんが延喜年間（901～923年）とも寛治年間（1087～1094 年）ともいわれています。拝殿にある「大船絵馬」は新潟県指定有形民俗文化財となっています。

○湊稲荷神社（みなといなりじんじゃ）

＜願懸け高麗犬

中央区稲荷町にある神社で、1716（享保元）年に建てられました。海を行き交う船の安全や、海上での仕事が長く続くことを願い祈りました。現在は商売が栄え、進学がかなうことなど、

>

いろいろな願いがされています。この神社には獅子に似た犬の二つそろった像「願掛け高麗犬」があり、男性は向かって右、女性は左 の高麗犬を回しながら願いをかけると叶う、と言われています。

○日和山住吉神社（ひよりやますみよしじんじゃ）

中央区東堀通13番町の日和山の頂上にあり、海の安全を願い祈りました。日和山は砂丘のひとつで、砂が風に運ばれてきた高い砂丘の上からは、港の周辺を見渡すことができました。頂上には方向を示す石「方角石」が残されています。

○種月寺（しゅげつじ）

西蒲区石瀬にある曹洞宗の寺院で、1446（文安3）年に建てられました。曹洞宗の越後にある4つの道場の1つとされ、修行する多くの僧でにぎわいました。本堂は1989（平成元）年、国の重要文化財に指定されています。

＜種月寺本堂＞

○佛興寺（ぶっこうじ）

中央区神道寺にある佛興寺は1492（明応元）年に創られました。1847（弘化4）年と1880（明治13）年の2回火災にあい、本堂は焼けてなくなりました。その後、新しく建てられた本堂の各所にある彫刻は幕末の名人彫刻師、石川雲蝶の作品です。

５）石碑（せきひ）

○「砂山」歌碑（すなやまかひ）

中央区西船見町の護国神社内に、1961（昭和36）年に建てられました。「海は荒海

向こうは佐渡よ すずめ啼け啼け もう日はくれた みんな呼べ呼べ お星さま出たぞ」で始まる北原白秋 の童謡「砂山」の歌詞がひらがな活字体できざまれています。

白秋が新潟を訪れ、児童音楽会を見聞きした時、子供たちに約束した新潟の童謡として贈ったのがこの「砂山」です。

○「花嫁人形」の歌碑（はやよめにんぎょうのかひ）

中央区西堀通7番町のホテルイタリア軒のわきに「蛍」という日本料理屋があります。その前に1966（昭和41）年に建てられました。蕗谷虹児25歳の作品で、石碑は活字体で彫ったものです。「金襴緞子の帯しめながら花嫁御寮はなぜ泣くのだろ」で始まる「花嫁人形」には、若くして亡くなった母の面影を、西堀を行きかう舞妓に重ね合わせてたたずんでいた少年 虹児の深い想いが込められています。

○良寛句碑（りょうかんくひ）

書に詩歌に名作を残した江戸時代後期の禅僧、良寛の碑は全国に数多く建てられていますが、新潟市にも多くの碑があります。良寛は、托鉢で米などを家々から受けるために、たびたび新潟市を訪れていました。良寛碑は、県立図書館の敷地内にある「一二三いろは」碑、中央区には西堀通8、勝楽寺に「こしの千涯 良寛てまり」の碑、古町通6の角に「新潟の良寛」像と詩碑、などがあります。

５．生活と文化（せいかつとぶんか）

１）市場（いちば）

○本町市場（ほんちょういちば）

1873（明治6）年に県が場所や時間を定め、「新潟市民の台所」として、現在の中央

区本町通5、6番町に市場が開かれました。市場には、港から運ばれた魚介類や近くの農家の人がとれたての野菜、雑貨を売る簡単な出店が立ち並び、地元の人たちはもちろんのこと周辺の市町村からも訪れ、大勢の人でにぎわっています。

○白山市場（はくさんいちば）

中央区のＪＲ越後線の白山駅から近い新潟商業高校の横に開かれた市場で、近くの農家の人たちが、畑でとれたばかりの野菜や果物、花、笹だんごなどが安く売られてにぎわいをみせています。

○松浜市場（まつはまいちば）

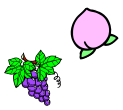
明治時代から毎月2と7のつく日に行われ、地元の新鮮な野菜や日本海からとれた魚が多く並びます。阿賀野川の土手沿いにある通りに、約400メートルの長さでお店が立ち並んで開かれます。

○葛塚市（くずつかいち）

市場が開かれたのは江戸時代からで1761（宝暦11）年に江戸幕府から許可されました。開催日は5日ごとで毎月1、5、10、15、20、25の日に行われます。

○白根定期市場（しろねていきいちば）

歴史は古く、最初に市が開かれたのは1569（永禄12）年とされています。毎月4と9がつく日に開催され、南区白根新町通りで、魚・野菜・果物・衣類など、いろいろなものが並びますが、この地域は昔から果樹栽培が盛んなため、夏から秋にかけては、特に桃やなし・ぶどうなどがたくさん売られます。



○三・九の市（さん・くのいち ＝ 亀田定期露店市）

1694（元禄7）年 11 月 3 日に旧亀田町（江南区）に開かれたのが始まりとされています。3 と 9 の日に市をたてるという案内の立札で、旧亀田町周辺の新潟・沼垂・木戸・横越・沢海など主要な地域に、遠くは新津・水原・五泉などにまで知らせたことにより、多くの客が集まりました。

２）まつり

○新潟まつり（にいがたまつり）

1956（昭和31）年 8 月に、それまで別々に開催されていた「住吉祭」「川開き」「商工祭」「開港記念祭」を一本化し、「新潟まつり」としてスタートしました。

開催日を、1982（昭和 57）年の上越新幹線開通を受けて、8 月 20 日から 23 日までであったものを、7 日から 9 日の 3日間に改められました。また、政令指定都市移行を受けて、2007（平成19）年からは 8 月 3 日から 11 日の間の週末（金、土、日）開催となりました。初日の夜の大民謡流し・オープニングスターマインで幕を開け、2日目は水上渡御や市民みこしなどの大パレード、音楽付き花火ショー、最終日の夜に「ナイアガラ花火」が見事な大花火大会でフィナーレを飾ります。

○かめだ祭り（かめだまつり）

毎年8 月 25、26 日に開催されます。1日目は「たるの響き」が特徴の亀田甚句による民謡流しが江南区亀田本町通りを舞台に行われます。2 日目は岩をかたどった大岩万燈を若衆がかついで、「亀田木やり」にあわせて元気よくぶつけ合います。

○にいつ夏まつり（にいつなつまつり）

約400年の歴史をもつ「新津松坂市内流し」や、7台の豪華な屋台が市内をかけめぐり激しくぶつかり合う「屋台まつり」が、毎年8月に2日間にわたり行われます。

３）芸能（げいのう）

○新潟甚句（にいがたじんく）

古くは新潟市の盆踊りとして歌い踊られていたもので、主に樽を使って「たるたたき」を行うことが特徴です。現在は新潟祭りの大民謡流しで踊られています。

○新潟万代太鼓（にいがたばんだいだいこ）

毎年8月に開催される新潟まつりをはじめ、年間を通じていろいろなイベントで演奏されています。石川県片山津太鼓を手本として作られたもので、みなと太鼓、甚句ともえ打ち、おけさ揃い打ちなど、多くの打ち方があります。

○角兵衛獅子（かくべえじし）

江戸時代に最も人気があり、当時は全国各地を渡り歩いた子どもたちによる獅子芸を得意とした大道芸です。現在は南区の小、中学生が伝統芸能として受け継ぎ、地元の「月潟まつり」などで披露されています。

＜角兵衛獅子の舞台＞

○にいがた総おどり祭り（にいがたそうおどりまつり）

2002（平成14）年から始まり、中央区の万代シティなどを会場に毎年9月に行われます。江戸時代の下駄を打ち鳴らして踊るまつり「下駄総踊り」も再現され、新潟の大切な伝統文化が披露されています。

○白根大凧合戦（しろねおおだこがっせん）

毎年6月の上旬に南区の中ノ口川の両岸から大凧をあげて、空中でからめあい、川に落として、相手の凧綱が切れるまで引き合う大凧合戦です。1737（天文2）年に南区（旧白根市）の人が凧をあげて、中ノ口川の堤防工事の完成を祝ったときに、川の対岸（旧味方村）に凧が落ちて作物や家を壊しました。それに腹を立てた旧味方村の人が、負けずに凧をあげたことが始まりといわれています。

４）伝統工芸・文化（でんとうこうげい・ぶんか）

○新潟漆器（にいがたしっき）

新潟にはいろんな漆器づくりの技術が伝わった歴史があり、なかでも竹塗製品は九州から北海道まで出荷されました。竹塗は江戸時代につくられ、明治時代に新潟に伝えられました。竹塗とは竹に塗装をしたものでなく、木の上に漆で竹のような模様をつけて、竹を張っているように見せる塗りです。竹塗をはじめとした5種類の新潟漆器は2003（平成15）年に国の伝統的工芸品に指定されています。

○新潟・白根仏壇（にいがたしろねぶつだん）

江戸時代中期より300年以上の歴史をもち、新潟を産地とする「新潟・白根仏壇」は1980（昭和55）年に国の伝統的工芸品に指定されています。

新潟仏壇は寺院を建てる専門家が京都から技術を取り入れて彫刻を行った白木仏壇が考案され、まき絵を多くしようとしていることが特徴です。各部分が組立て式で、分解ができるため、100年後であっても壊れた部分を修復できるようになっています。

○漫画文化（まんがぶんか）

新潟市は、水島新司や高橋留美子、魔夜峰央など多くの漫画家が出ています。中央区

の古町5番町にはドカベンのキャラクターをイメージした銅像が立ち並ぶとともに、全国でもめずらしい「日本アニメ・マンガ専門学校」もあり、一躍、まんがストリートとして注目されています。

1997（平成9）年には、新潟市で「新潟市マンガコンテスト」が行われ、翌年から毎年「にいがたマンガ大賞」が開催されています。

また、新潟市のマンガ・アニメを活用したまちづくり構想の一環として 2013（平成 25）年 2 月「マンガの家」2013（平成 25）年 5 月「アニメ・マンガ情報館」が作られ新たなランドマークとしてたくさんの人が訪れています。

○お笑い集団　ＮＡＭＡＲＡ（おわらいしゅうだん　なまら）

1997（平成9）年に新潟市でできた全国初の地方のお笑い集団です。ライブやテレビ・ラジオ出演のほか、小、中学校での「お笑い授業」などこれまでのお笑いのイメージにとらわれず広い分野で活躍中です。

○新潟古町芸妓（にいがたふるまち　げいぎ）

長い伝統を誇る古町芸妓は、京都祇園、東京新橋の芸妓とならんで日本三大芸妓といわれ、江戸時代にはじまりました。古町芸妓は厳しい練習を重ね、踊りはもちろん、唄・三味線・鳴物など数々の質の高い芸を身につけ、今日まで引き継がれてきました。今も料亭をはじめ、各種のイベントなどで芸を披露しています。

また近年、市民に身近に芸妓文化にふれてもらうとともに、古町芸妓の将来の担い手発掘にもつなげようという目的で、小学校を訪問し、学童体験会を実施しています。

○アルビレックス新潟（あるびれっくす にいがた）

新潟市と聖籠町をホームタウンとするサッカーチームで、

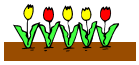
2004（平成16）年からＪ１リーグに参戦しています。多くのサポーターに支えられていることでは日本でトップクラスといえます。白鳥をキーキャラクターにし、チームカラーのオレンジとブルーは新潟の夕日と日本海をイメージしました。

さらに、2002（平成14）年には、アルビレックス新潟レディースのリーグが結成、日本初のプロバスケットボールチーム「新潟アルビレックスＢＢ」も誕生しました。2007（平成 19）年から「新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ」という野球チームが誕生しています。近年は、陸上やウィンタースポーツの分野にも進出し、アルビ軍団の活躍はめざましいものがあります。

６．農・水・農産物（のう・すい・のうさんぶつ）

１）花（はな）

○チューリップ



日本におけるチューリップの球根生産の始まりは、現在の秋葉区小合地区といわれています。新潟市では、現在でも約 500 種が作られていると言われており、チューリップは「市の花」に選ばれています。

○アザレア

秋葉区小合地区では、アザレアづくりがさかんで、全国一の生産地となっています。「ロマンスパール」「紅姉妹」「アンティークレッド」などの品種があります。

○サツキ

新潟市では主に秋葉区と南区に産地があり、5～6月には「さつきまつ

り」が市内各地で開かれています。

○ボケ

秋葉区、南区とその周辺で、国内の約9割が生産されています。旧小須戸町の加藤政明という人が、新しい栽培技術を考え園芸と稲作の両立を可能にしました。毎年3月には、秋葉区で「日本ボケ展」が開催されています。

○ホワイト阿賀（ほわいと　あが　＝　新テッポウユリ）

ホワイト阿賀は、毎年7月～10月に江南区で出荷される新テッポウユリです。色や形から「阿賀に咲く、白の貴婦人」とよばれています。<ホワイト阿賀>

２）食（しょく）

○コシヒカリ

コシヒカリは、お米として質、味ともに優れた品種でしたが、開発された最初のころは倒れやすく病気に弱かったため、多くはつくれませんでした。その後、改良を加え、今では新潟県を代表するお米となっています。

○くろさき茶豆（くろさき　ちゃまめ）

西区黒埼地区で7月下旬から8月中旬にかけて栽培・収獲される枝豆の品種です。実の薄皮が茶色であることから名付けられました。

○かきのもと（食用菊・しょくようぎく）

新潟市では特に南区での栽培がさかんです。赤紫色をした花の部分を食用に使います。名前の由来には「垣根の元に植えられていた」「柿の

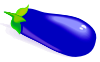
木の下に植えられていた」などの説があります。

○女池菜（めいけな）

中央区鳥屋野地区を中心に、冬から春にかけて栽培される小松菜の一種です。雪をかぶるなど冬の寒さから身を守ろうとすることで甘味が増すといわれています。

○十全なす（じゅうぜんなす）

巾着型のなすで、実はしまっていながら柔らかく、浅漬けや一夜漬



けに適しています。新潟市内全域で栽培されており、6月中旬から9月下旬までが収穫・出荷時期となっています。

○藤五郎梅（とうごろううめ）

梅の産地として知られる江南区亀田地区が発祥の地とされています。大玉で実が肉厚で柔らかく、しその着色が良いことから梅酒や梅干しに適しています。収穫時期は6月です。

○ル　レクチエ（西洋なし・せいようなし）

南区白根地区で栽培が始まり、昭和50年代ごろから安定した生産ができるように

なった西洋なしの一種です。10月下旬に実が固いまま収穫し、約40日間追熟させ柔らかくなってから食べます。

○越後姫（えちごひめ ＝ イチゴ）

大粒で種が少なく鮮やかな赤色と甘さが特徴のイチゴの新品種です。「女峰」、「ベルルージュ」、「とよなか」の品種交配によって誕生しました。

収穫は1月下旬から6月上旬までです。

○南蛮えび（なんばんえび）

赤い身と形が「南蛮（唐辛子）」に似ているところから名前がつけられています。「ホッコクアカエビ」が標準和名ですが、とろけるような食感と甘みから「甘えび」ともよばれます。旬は冬です。

○のどぐろ

スズキ科の魚アカムツのことで、口の中が黒いことから「のどぐろ」とよばれています。旬は秋から冬にかけてです。現在では高級魚の仲間入りをしています。

○のっぺ（のっぺい）

お正月や冠婚葬祭の時に出される新潟の郷土料理です。里イモ、ニンジン、シイタケ、タケノコ、コンニャク、ギンナン、鮭、鶏肉、などが小さく切られて入っています。温めても冷やしてもおいしく食べられます。

<のっぺ>

○地酒（じざけ）

米どころ新潟は銘酒の産地として全国に知られています。新潟市内には日本酒を造る蔵元が１４軒あり、酒造りの見学ができる蔵元もあります。新潟の地酒は淡麗辛口が特徴であるといわれています。

○笹団子（ささだんご）

かつては端午の節句に各家庭で作られていたヨモギ餅のお団子で、俵型に丸め3枚の笹で包んでいます。現在では新潟を代表するお土産品となっています。

○ぽっぽ焼き（ぽっぽやき）

お祭りなどの屋台で売られる新潟県下越地方独特の焼き菓子です。水に溶かした黒砂糖に小麦粉などを混ぜて作った生地を型に流し込んで焼きます。

○イタリアン

近年、新たな新潟名物として注目されている“B級グルメ”のひとつです。ソース焼きそばを洋風にしたもので、他にはない珍しさから、多くのテレビ、雑誌などでも紹介されています。

<イタリアン>

○タレかつ丼（たれかつどん）

「タレかつ丼」は、揚げたての薄めのトンカツを“甘辛醤油ダレ”にくぐらせ、ご飯にのせたシンプルなかつ丼で、卵にとじないのが特徴です。新潟潟市発祥のかつ丼として、今や全国的にも有名となっています。

めいさんひん
新潟市食と花の銘産品　一覧

平成 21 年 4 月 1 日現在

区分	品　　目	区分	品　　目
花き	新テッポウユリ「ホワイト阿賀」	果樹	西洋なし「ル　レクチエ」
花き	チューリップ（切り花・球根）	果樹	日本なし「新高」
花き	アザレア	果樹	日本なし「新興」
花き	ボケ	果樹	ぶどう「巨峰」
花き	クリスマスローズ	果樹	藤五郎梅
野菜	食用菊「かきのもと」	果樹	越王おけさ柿
野菜	にいがた十全なす	畜産物	しろねポーク
野菜	新潟すいか	水産物	南蛮えび
野菜	くろさき茶豆	水産物	さくらます
野菜	女池菜	水産物	あまだい
野菜	いちご「越後姫」	水産物	やなぎがれい
野菜	トマト（大玉系）	水産物	のどぐろ
野菜	やきなす		
野菜	ながいも		

７．自然と観光施設（しぜんとかんこうしせつ）

１）自然景観（しぜんけいかん）

○信濃川（しなのがわ）

長さ 367 キロメートル、日本で一番長い川です。長野、山梨、埼玉の県境にある甲武信ヶ岳を水源に、長野県、新潟県を流れて日本海に到達します。長野県では「千曲川」と呼ばれています。信濃川の氾濫をふせぐために、河口から 60 キロメートルのところに大河津分水、河口から 8.5 キロメートルのところに関屋分水という分水路が造られています。途中の三条市と新潟市西区の間では「中ノ口川」という川に分かれます。また河口近くの川の両岸には「やすらぎ堤」が整備されています。

○阿賀野川（あがのがわ）

長さ 210 キロメートルの川です。福島、栃木の県境にある荒海山を水源に、福島県、新潟県を流れて日本海に到達します。福島県では「阿賀川」と呼ばれています。昔の阿賀野川は信濃川と合流して日本海に注いでいましたが、1730（享保15）年に造られた放水路が洪水のため本流となり、現在のようにふたつの川の河口が分かれました。

○鳥屋野潟（とやのがた）

中央区にある東西にのびる天然の潟湖で、周囲は約 8 キロメートル、最も深いところで 3 メートルです。周囲には約630本の桜があり、冬には白鳥が飛来します。

○佐潟（さかた）

西区にある小さな上潟と大きな下潟のふたつの潟からなる砂丘湖で、

長さは約2.1キロメートル、幅は最大で350メートル、深さは平均で約1メートルです。周辺からの湧水や雨水で水量が保たれ、他の河川から水が流入していません。1996（平成8）年、日本で10番目のラムサール条約湿地となり、湿地や生態系が維持されています。絶滅のおそれのあるオニバスやミズアオイ、ハンゲショウなどの珍しい植物もみられ、冬には白鳥、ヒシクイ、ミコアイサなどの水鳥が越冬のため飛来します。

○福島潟（ふくしまがた）

北区にある新潟県内最大級の潟湖です。冬には国の天然記念物であるオオヒシクイやコハクチョウなどが越冬のため飛来します。また，大きいもので葉の直径が2メートル以上になる日本の水生植物のなかで最大の葉を持つオニバスが自然に生育できる北限でもあります。

1997（平成9）年には、潟文化の森・水の駅「ビュー福島潟」、水辺の休憩広場・「遊水館」、自然学習園「潟来亭」の3つからなる水の公園・福島潟がオープンしました。

＜ビュー福島潟＞

○角田山（かくだやま）

標高は481.7メートル、新潟市内では多宝山に次ぐ高さの山です。山頂からは日本海や佐渡、越後平野を一望できます。登山コースも複数整備され、カタクリや雪割草などたくさんの山野草がみることができます。近年では「花の山」として有名で、全国から登山者が訪れます。

○多宝山（たほうざん）

標高は633.8メートル、新潟市で一番高い山です。南に位置する弥彦山とは双耳峰となります。昔は「十宝山」と呼ばれ、品質の良い銅が採れました。ここで採れた銅で、燕市の銅器産業が栄えたといれています。

２）観光施設（かんこうしせつ）

○みなとぴあ

2004（平成16）年にオープンしました。新潟市歴史博物館本館、旧新潟税関庁舎、旧第四銀行住吉町支店などがあります。

＜新潟市歴史博物館本館＞

新潟市歴史博物館本館は、1911（明治44）年に建てられた2代目新潟市役所庁舎を元にデザインされています。

旧新潟税関庁舎は、新潟港開港に際して新潟運上所として1869（明治2）年に建てられ、1873（明治6）年に税関と名を改められました。

旧第四銀行住吉町支店は1927（昭和2）年に住吉町に建てられた銀行で、みなとぴあの敷地に移築復元されました。現在はレストランとして使われています。

○白山公園（はくさんこうえん）

日本で最初に開園した公園のひとつです。1873(明治6)年、2代県令楠本正隆により開園され、当初は新潟遊園と呼ばれていましたが、のちに白山公園になりました。だれもがいつでも自由に利用できる公園を作ろうと、市街地の上手にある白山神社境内に作ったオランダ風回遊式庭園です。

園内には、後の世代に伝えるべきことを石に刻んだいろい

ろな碑が建てられています。現在はやすらぎ堤につながる都市型公園となり、新潟市を象徴する存在になっています。　　＜白山公園＞

○北方文化博物館（ほっぽうぶんかはくぶつかん）

江戸時代の中期から昭和にかけて、多くの土地を所有し財力や勢力を持った農家「豪農」であった伊藤家の邸宅です。3,960平方メートルの純日本式住宅で、65の部屋があり1889（明治22）年に完成しました。29,100平方メートルの敷地には、春は桜や藤棚、夏はツツジ、秋は紅葉など季節ごとに楽しめる庭園があります。

伊藤家の初代文吉は、阿賀野川沿いの沢海地区で農業より身を起こし、金融、倉庫業などを営み大地主として繁栄し、昭和時代には県下最大級の地主となりました。

○新潟市観光循環バス（にいがたしかんこうじゅんかんばす）

新潟駅前を発着し、朱鷺メッセ、みなとぴあ、新潟市美術館、マリンピア日本海、白山公園、万代シティなど新潟市中心部の観光施設をまわる路線バスで、乗車定員は38名です。車体には新潟市出身のマンガ家、高橋留美子と水島新司の作品がデザインされ、「犬夜叉号」「ドカベン号」の愛称で親しまれています。

○ＳＬばんえつ物語号（えすえる ばんえつ ものがたりごう）

磐越西線の新潟駅～会津若松駅の間を、蒸気機関車を先頭に７両編成で走っています。先頭車両はＳＬの「Ｃ５７－１８０」で、その整ったスタイルから「貴婦人」の愛称で親しまれています。

＜ＳＬばんえつ号＞

８．新潟市ゆかりの人々（にいがたしゆかりのひとびと）

１）学者・芸術家（がくしゃ・げいじゅつか）

○中田瑞穂（なかたみずほ）【1893-1975】

島根県津和野町生まれの医学者です。1927（昭和2）年、新潟医大外科学教室の教授に就任後、新潟神経学研究会を立ち上げ、1967（昭和42）年、新潟大学脳研究所を誕生させました。水俣病、スモンの病因解明、脳死や脳機能解明に関する研究などの業績を挙げました。

○澤田敬義（さわだけいぎ）【1873-1952】

岐阜県生まれの医学者です。1925（大正4）年に新潟医科大学長に就任、特につつがむし病や新潟県の地方病に関する研究に取り組みました。1951（昭和26）年新潟市名誉市民の称号を与えられました。

○荻野久作（おぎのきゅうさく）【1882-1975】

愛知県豊橋市生まれの医学者です。1912（明治45）年に新潟市の竹山病院の産婦人科医長に迎えられ、1924（大正13）年に「荻野学説」を日本産婦人科学会雑誌に発表しました。1951（昭和26）年、新潟市名誉市民の称号を与えられました。

＜荻野久作像＞

○平澤興（ひらさわこう）【1900-1989】

新潟市（旧味方村）生まれの医学者です。1930（昭和5）年に新潟医科大学教授に就任、脳脊髄の錐体外路系の研究が世界的に認められました。1957（昭和32）年、第16代京都大学総長に就任。旧味方村名誉村民の称号を授与されました。

○巻菱湖（まきりょうこ）【1777-1843】

江戸時代の書家で漢詩人です。越後の巻(後の巻町、現西蒲区)に生まれました。19歳の時に江戸に出て、江戸第一の書家となった菱湖は、篆書、楷書、仮名など七体を巧みに書きました。「幕末の三筆」の一人といわれています。

○吉田千秋（よしだちあき）【1895-1919】

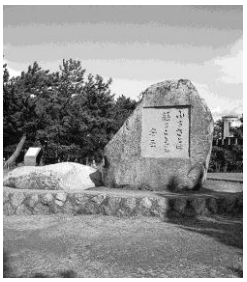
新潟市(旧新津市)に生まれました。1915(大正4)年に、自身が訳した英詩に作曲した「ひつじぐさ」を発表しました。1917(大正6)年に旧制第三高等学校でこの曲に新たな詞をつけて歌われたのが「琵琶湖周航の歌」の始まりです。

○前川國男（まえかわくにお）【1905-1986】

新潟市出身の建築家です。1928(昭和3)年東京帝国大学建築学科を卒業後、パリのコルビジュエで学び、1935(昭和 10)年に前川國男建設設計事務所を設立しました。「新潟市美術館」など数々の作品を設計し、多数の賞を受賞しています。

２）文芸・マンガ

○坂口安吾（さかぐちあんご）【1906-1955】



＜安吾の碑＞

新潟市生まれの作家です。1932(昭和7)年文壇に登場しました。1937(昭和 12)年、新潟ゆかりの長編「吹雪物語」を執筆、1946(昭和 21)年には「堕落論」「白痴」を発表し、一躍有名になりました。安吾の死を偲んで建てられた文学碑が中央区の西海岸公園内にありますが、「ふるさとは 語ることなし 安吾」と自筆の文が記されています。

○會津八一（あいづやいち）【1881-1956】

新潟市生まれです。「秋艸道人」の名で歌人、書家などとして活躍しました。奈良の古寺と仏像を愛し、1924(大正13)年に初の歌集である「南京新唱」を、後に「鹿鳴集」「山光集」「寒燈集」などを刊行しています。書は若い頃からの研鑽と独自の習字法により作り上げられ独特の境地を拓きました。1951（昭和26）年新潟市名誉市民の称号を与えられました。中央区には「會津八一記念館」が建てられています。

○新井満（あらいまん）【1946- 】

新潟市生まれです。作家、作詞作曲家など多方面で活躍し、長野冬季オリンピックでは開閉会式イメージ監督を務めました。小説家としては、1988(昭和63)年に「尋ね人の時間」で芥川賞を受賞しました。2003（平成15）年に発表した写真詩集「千の風になって」と、それに曲をつけ自ら歌唱したＣＤは現在もロングセラーを続けています。

○火坂雅志（ひさかまさし）【1956- 】

新潟市生まれの小説家です。「別冊歴史読本」副編集長を務めました。のち、1988（昭和63）年「花月秘拳行」で作家デビューしました。その後、「新潟日報」ほか全国13紙に、上杉謙信の義の心を受け継いだ直江兼続の生涯を描く「天地人」を連載し、同作品が2009（平成21）年度ＮＨＫ大河ドラマの原作として放映されました。

○水島新司（みずしましんじ）【1939- 】

新潟市生まれの漫画家です。1958(昭和33)年「深夜の客」でデビュー、講談社出版文化賞など多くの賞を受賞しています。代表作に「野球狂の詩」「男どアホウ甲子園」「ドカベン」「あぶさん」などがあります。

○赤塚不二夫（あかつかふじお）【1935-2008】

中国東北部（旧満州）生まれの漫画家です。1950(昭和25)年、旧潟東村に転居しました。1956（昭和 31）年「嵐をこえて」で漫画家としてデビューしました。「おそ松くん」「天才バカボン」「もーれつア太郎」などのギャグ漫画の代表作がヒットし、テレビアニメ化もされています。

○高橋留美子（たかはしるみこ）【1957- 】

新潟市生まれの漫画家です。1978（昭和53）年「勝手なやつら」でデビューしました。「うる星やつら」「犬夜叉」「めぞん一刻」などが代表作です。

３）芸能・スポーツ（げいのう・すぽーつ）

○小林幸子（こばやしさちこ）【1953- 】

新潟市生まれの歌手、タレント、女優です。1964（昭和39）年「ウソツキ鴎」でデビューし、天才少女歌手といわれました。1979（昭和 54）年に発表した「おもいで酒」は 200万枚を売る大ヒットになりました。

2007（平成19）年新潟市観光大使に任命されました。

○市山七十世（いちやまなそよ）【1948- 】

日本舞踊市山流7代目家元です。市山流は、江戸時代の初代市山七十郎から約200年続く歴史ある流派で、新潟市の無形文化財指定第1号となっています。母の 6 代目市山七十郎とともに中央への稽古や舞台上演で、新潟の市山流という域を脱し、日本の伝統芸能の上での地位を固めました。1994（平成6）年に加茂市に伝わる「うしろ面」の舞台で文化庁芸術祭賞を受賞しました。

○川田芳子（かわだよしこ）【1895-1970】

新潟市生まれで日本初の映画女優です。日本舞踊市山流の宗家が実家でした。新派女優として華やかなスタートを切り、1920（大正9）年に松竹キネマの第1作となった「島の女」の主演女優に起用され、1924（大正13）年の女優人気投票で第1位となりました。1929（昭和4）年の「母」が代表作です。

○小唄勝太郎（こうたかつたろう）【1904-1974】

新潟市生まれで、1930(昭和5)年レコードデビューしました。「島の娘」の大ヒットし、「明日はお立ちか」「東京音頭」など多くのヒット曲を世に送り出しました。1971（昭和46）年には歌謡界で初めて紫綬褒章を受章しました。2005（平成17）年に、故郷である新潟市沼垂に「小唄勝太郎顕彰碑」が建立されました。

○羽黒山政司（はぐろやままさじ）【1914-1969】

新潟市（旧中之口村）生まれの、第36代横綱でです。19歳で立浪部屋に入門、入幕まで各段優勝、各段一場所で昇進しました。横綱の在位12年9ヶ月で、7回優勝しました。引退後は、立浪部屋を継承、後進の指導にあたりました。旧中之口村にはその偉業をたたえ、銅像が建てられています。

○加藤澤男（かとうさわお）【1946- 】

五泉市（旧村松町）で生まれ、新潟市中央区の新潟南高校に進学しました。体操競技の選手としてでメキシコ、ミュンヘン、モントリオールのオリンピック 3大会に出場し、金メダル8個、銀メダル3個、銅メダル1個の、合わせて12個のメダルを獲得しました。2001(平成13)年に「体操競技の殿堂」入りをしました。

○ヒルクライム（Ｈｉｌｃｒｈｙｍｅ）

新潟市を拠点に活躍しているラップユニットで、上越市出身のＴＯＣ（トク）と新潟市出身のＫＡＴＳＵ（カツ）が 2004（平成16）年に結成しました。「春夏秋冬」などでヒットを飛ばして人気があります。山や海があり、四季がはっきりしている新潟が好きな２人です。

○ねぎっこ（Ｎｅｇｉｃｃｏ）

2010（平成22）年に行われた全国のご当地アイドルのコンテスト「Ｕ・Ｍ・Ｕ　ＡＷＡＲＤ２０１０」でグランプリに輝いた本県の３人組アイドルです。ねぎっこは 2003（平成 15）年、ＪＡ全農にいがたによる「やわ肌ねぎ」のＰＲの一環で誕生しました。コンテストはネギを手に持って歌い踊り、特産品をＰＲするご当地色が評価され、新潟を全国にアピールしました。

４）外国人

○ピエトロ・ミリオーレ

1874（明治7）年にフランスの曲馬団員として新潟にやってきたイタリア人です。日本を訪れた際に大けがをして新潟に置き去りにされてしまいました。現在の県知事にあたる新潟県令に勧められ出店した牛鍋屋が 1880（明治 13）年の大火で消失してしまいますが、翌年、本格的な西洋レストランである「イタリア軒」を誕生させて成功しました。

○イザベラ・バード【1831-1904】

英国ヨークシャーに生まれです。当時としては珍しい女性旅行家とて世界中を旅

しました。1878（明治11）年の 6 月～9 月まで東北、北海道を旅行して「日本奥地紀行」を書きましたが、その中で新潟のまちの魅力についても書いています。

○デューク・エリントン【1899-1974】

アメリカ出身のジャズピアニストであり、オーケストラのリーダーです。1964（昭和39）年に起きた新潟地震の際、全国公演中に次の公演をキャンセルして「新潟地震救済資金募集特別コンサート」を開催し、その収益金すべてを寄付しました。

新潟市は 1966（昭和 41）年に「国際親善名誉市民」の称号を贈りました。

うでだめし問題

（第５回ニイガタ検定問題より）

挑戦してみよう

【問１】新潟市内を流れる川は次のどれか
Ａ　最上川　　Ｂ　利根川　　Ｃ　信濃川　　Ｄ　天竜川

【問２】新潟市の花と木の組み合わせで正しいのはどれか
Ａ　ボタン・松　　Ｂ　ツツジ・杉　　Ｃ　スイセン・桜　Ｄ　チューリップ・柳

【問３】古くから「鉄道のまち」として栄え、日本海側の鉄道の要として発展した新潟市内の駅はどれか。
Ａ　亀田駅　　Ｂ　新津駅　　Ｃ　白山駅　　Ｄ　豊栄駅

【問４】江戸時代の歌人・書家で知られ、新潟市へもたびたび托鉢に訪れた、「一二三いろは」などの碑が残されている僧侶の名は何というか
Ａ　日蓮　　Ｂ　浩然　　Ｃ　沢庵　　Ｄ　良寛

【問５】「可憐でみずみずしい新潟のお姫様のようだ」ということから越後姫と名付けられた果物は何か
Ａ　柿　　Ｂ　梨　　Ｃ　イチゴ　　Ｄ　スイカ

【問６】新潟市で一番高い山は何山か
Ａ　多宝山　　Ｂ　角田山　　Ｃ　弥彦山　　Ｄ　菩提寺山

【問７】１８７３（明治 6）年、日本で最初に開園した公園の一つが新潟市にあります。それは何公園か
Ａ　じゅんさい池公園　Ｂ　西海岸公園　Ｃ　秋葉公園　Ｄ　白山公園

【問８】人気漫画「天才バカボン」で知られる新潟市ゆかりの漫画家はだれか
Ａ　赤塚不二夫　　Ｂ　高橋留美子　　Ｃ　水島新司　　Ｄ　魔夜峰央

【問９】新潟県指定有形民俗文化財の大船絵馬が拝殿に掲げられている、中央区にある神社の名前は何か（記述式）

【問 10】南区白根地区で栽培が始まった、「新潟市食と花の銘産品」に指定されている西洋ナシの一種は何というか（記述式）

こたえ
【問 1】Ｃ【問 2】Ｄ【問 3】Ｂ【問 4】Ｄ【問 5】Ｃ【問 6】Ａ
【問 7】Ｄ【問 8】Ａ【問 9】白山神社【問 10】ル レクチエ